

高規格道路の整備により 災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築する

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

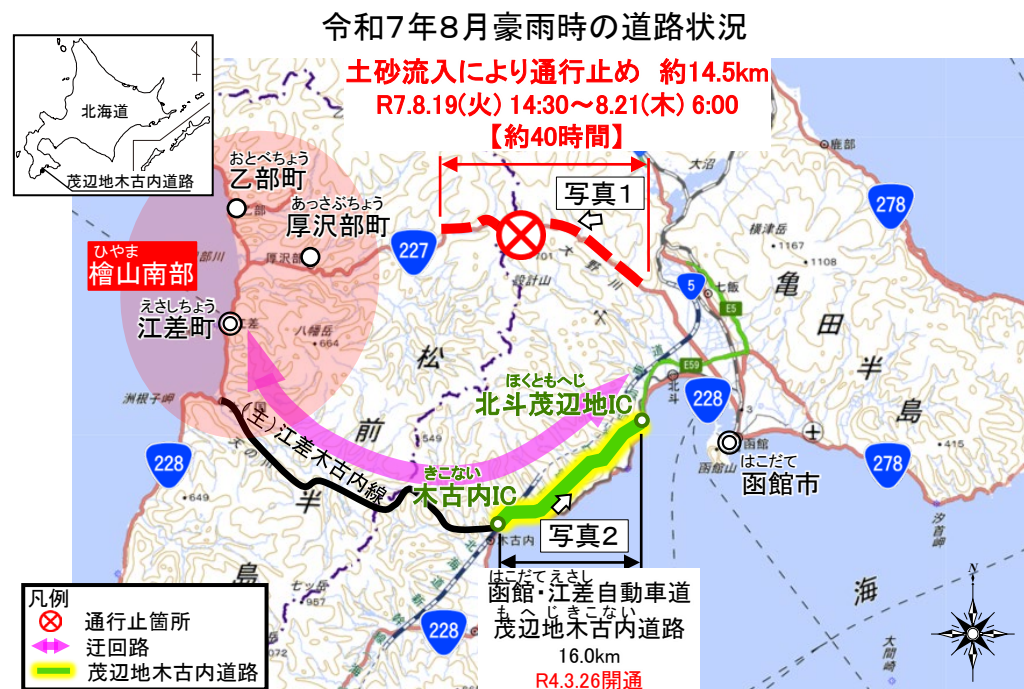
災害時の効果発揮事例

概要: 高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化や災害に強い道路ネットワークの構築等を目的に茂辺地木古内道路を整備。令和7年8月の豪雨(最大時間雨量50mm)による国道227号通行止め時には、当該道路が代替機能を発揮し、都市間の交通を確保した。

対策名: 51 高規格道路のミッシングリンク解消及び4車線化、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策<5か年加速化対策>【国土交通省】

- 実施主体: 北海道開発局 函館開発建設部
- 実施場所: 北海道北斗市
- 事業概要: 函館市と檜山南部地域等を連絡する広域的な道路ネットワークを形成し、函館市に集中する高次医療施設への搬送時間の短縮や災害時における輸送路の確保等を目的として、函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路(延長16.0km)を整備した。
- 事業費: 788億円(令和4年度事業完了)
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)2億円)
- 災害の外力、被害と効果:

北斗市の国道227号では、令和7年8月豪雨(最大時間雨量50mm)により土砂流入が発生。約40時間に渡って通行止めとなったが、令和4年3月26日に開通した函館・江差自動車道茂辺地木古内道路が迂回路としての代替機能を発揮し、中核都市である函館市と檜山南部の都市(江差町、乙部町、厚沢部町)との交通を確保。



(写真1) 国道227号土砂流入状況(R7.8.19)



(写真2) 函館・江差自動車道(R7.8.19)